

静岡経済研究所 NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 一杉逸朗
静岡市葵区追手町 1-13
TEL 054-250-8750
FAX 054-250-8770

静岡県内主要産業の四半期見通し調査 (2017年10~12月期)

輸出型産業がけん引し、県内景気は緩やかに回復

米株高や円安傾向を追い風に、工作機械など外需が好調な輸出型産業を中心として、静岡県内企業の足元の業況は回復しつつある。

今後については、総選挙を経て安定した政権が経済政策を打ち出していくことで、輸出型産業を主導役としながら県内産業景気は上向いていく見通し。また、深刻な労働者不足に対応するため賃上げが実施されることで、個人消費の浮揚も期待される。

なお、業種ごとの10~12月期の業界景気見通しは、主要20業種すべて『横ばい』。

『好調』はなく、『順調』が3業種、『普通』が9業種、『低調』が8業種となる見通し。

業種	業界景気	
	現況 (7~9月)	見通し (10~12月)
製茶	● → ●	● → ●
食品・飲料	● → ●	● → ●
家庭紙	● → ●	● → ●
産業用紙	● → ●	● → ●
工作機械	○ → ○	○ → ○
民生用電器部品	● → ●	● → ●
自動車部品	● → ●	● → ●
二輪車部品	● → ●	● → ●
建設	● → ●	● → ●
住宅	● → ●	● → ●
大型小売店	● → ●	● → ●
食品スーパー	● → ●	● → ●
自動車販売	● → ●	● → ●
家電量販店	● → ●	● → ●
運輸・倉庫	● → ●	● → ●
情報サービス	○ → ○	○ → ○
外食	● → ●	● → ●
観光・レジャー	● → ●	● → ●
リース	● → ●	● → ●
人材派遣	○ → ○	○ → ○

担当：主席研究員 山崎 眞嗣

輸出型産業がけん引し、県内景気は緩やかに回復

米株高や円安傾向を追い風に日経平均株価も年初来の高値を更新するなど、国内景気は緩やかな拡大を続けている。本県経済も、自動車販売や外食など内需向け産業で徐々に売上が増加しているのに加え、工作機械など外需が好調な輸出型産業を中心に足元の業況は回復しつつある。

今後の見通しについては、北朝鮮のミサイル発射問題など地政学的リスクはあるものの、総選挙を経て安定した政権が経済政策を打ち出していくことで、輸出型産業を主導役としながら県内産業景気は上向いていく見通し。また、深刻な労働者不足に対応するため賃上げが実施されることで、個人消費の浮揚も期待されよう。

(1) 業界景気の現況について

県内産業（主要 20 業種）の現況（2017 年 7～9 月期）は、『好調』業種はなく、『順調』が「工作機械」「情報サービス」「人材派遣」の 3 業種、『普通』が「食品・飲料」「家庭紙」「民生用電器部品」「自動車部品」「建設」「自動車販売」「運輸・倉庫」「外食」「観光・レジャー」の 9 業種、『低調』が「製茶」「産業用紙」「二輪車部品」「住宅」「大型小売店」「食品スーパー」「家電量販店」「リース」の 8 業種、『不調』業種はなしとなった。前回調査との比較では、『普通』が 1 業種増加、『不調』が 1 業種減少した。『低調』から『普通』に上がったのは荷動きが増えた「運輸・倉庫」、『不調』から『低調』へ上がったのは、熊本地震による減産の影響から脱した「二輪車部品」。

(2) 業界景気の見通しについて

2017 年 10～12 月期の景気見通しは、全 20 業種が『横ばい』の見通しとなった。

このうち『順調』が続くとみられるのが、国内で自動車や半導体向けが伸びる「工作機械」、首都圏を中心に案件が豊富な「情報サービス」、自動車関連、IT、介護などの分野で引き続き高い需要が見込まれる「人材派遣」の 3 業種。

『普通』のまま『横ばい』と予想されるのは、ツナ缶が堅調な「食品・飲料」、再生トイレ紙の生産量が前年並みの見通しの「家庭紙」、業務用エアコンが前年実績を確保できそうな「民生用電器部品」、登録車・軽自動車とも国内販売が堅調な「自動車部品」、公共工事契約額が前年並みで推移するとみられる「建設」、モーターショー開催で市場活性化が見込まれる「自動車販売」、輸送用機器などの年末の荷動きに期待がかかる「運輸・倉庫」、需要が堅調な「外食」、宿泊需要が微増基調にある「観光・レジャー」の 9 業種。

一方、『低調』のまま『横ばい』が続くのは、年末・年始の贈答需要の盛り上がりを欠く「製茶」、白板紙の生産量が前年並みとみられる「産業用紙」、熊本地震の減産体制からは脱却したものの、排ガス対策で 8 月で生産終了したモデルもあり生産減が見込まれる「二輪車部品」。貸家市場の飽和感が高まっている「住宅」、消費者の節約志向の強まりで価格競争が見込まれる「大型小売店」、サンマやサケの不漁が続く水産品の売上減少が見込まれる「食品スーパー」、主力の 4K テレビで価格下落が進む「家電量販店」、自己資金での設備投資が増加すると見込まれる「リース」の 8 業種。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の『現況』と『見通し』推移

年 次		2014年	2015年				2016年				2017年		
四 半 期		Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ (今回調査)
対象月(○は調査月)		10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨
業界景気の『現況』	好調 ☀	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	順調 ○	2	1	2	3	2	2	2	2	2	2	3	3
	普通 ◐	4	4	3	5	7	7	7	7	6	8	8	9
	低調 ☁	13	13	13	11	10	10	10	10	11	9	8	8
	不調 ☂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
	全業種の平均階級値	2.35	2.40	2.45	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.45	2.55	2.65	2.75
好調：5													
順調：4													
普通：3													
低調：2													
不調：1													
業界景気の『見通し』	上 昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇 ↗	0	2	2	0	0	1	0	0	2	0	1	0
	横 ば い →	20	18	18	20	20	19	19	20	18	20	19	20
	やや下降 ↘	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	下 降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(9月調査であれば7～9月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(9月調査であれば10～12月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。
 調査時点…2017年9月上旬
 回答企業…県内主要20業種(255社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、20業種の平均値。

2017年10～12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (7～9月)	見通し (10～12月)	生産量 (前7～9月期 対比伸び率)	売上高 (前7～9月期 対比伸び率)	生産量 (前仲 年同期 比率)	売上高 (前仲 年同期 比率)	操 業 度	需 給 バ ラ ン ス	製 品 在 庫 水 準	原 材 料 価 格 の 動 向 (前7～9月期対比)	製 品 価 格 の 動 向 (前7～9月期対比)	受 注 残 (ヵ月)
製茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	→	○	均 衡	適 正	↗	→	—
食品・飲料	○ → ○	○	↘	↘	↘	→	○	均 衡	適 正	↗	↗	0.5～1.0
家庭紙	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	↗	↗	0.1～1.0
産業用紙	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	↗	↗	0.1～1.0
工作機械	○ → ○	○	→	↗	→	↗	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～7.5
民生用電器部品	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～3.0
自動車部品	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～3.0
二輪車部品	☁ → ☁	☁	↗	↗	→	→	◇	均 衡	適 正	→	→	0.5～3.0
建設	○ → ○	○	—	→	—	↗	○	均 衡	適 正	↗	→	3.0～11.0
住宅	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	○	均 衡	適 正	→	→	3.0～6.0
大型小売店	☁ → ☁	☁	—	→	—	↘	—	供給超過	適 正	→	→	—
食品スーパー	☁ → ☁	☁	—	→	—	↘	—	供給超過	適 正	→	→	—
自動車販売	○ → ○	○	—	→	—	↗	—	均 衡	適 正	→	→	—
家電量販店	☁ → ☁	☁	—	→	—	↗	—	供給超過	適 正	→	→	—
運輸・倉庫	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	均 衡	—	→	→	—
情報サービス	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—
外食	○ → ○	○	—	→	—	→	—	均 衡	—	↗	→	—
観光・レジャー	○ → ○	○	—	↘	—	→	—	供給超過	—	→	→	—
リース	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	—	—	—	—	—
人材派遣	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—

表の見方と注意

業界景気 現況 見通し	業界景気 見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操 業 度	需給バランス	製品在庫水準
好 調 ☀	上 昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順 調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需 要 超 過	過 少
普 通 ●	横 ば い →	横 ば い → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均 衡	適 正
低 調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ◐	供 給 超 過	過 多
不 調 ☔	下 降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

主要業種の現況と10～12月期の景況見通し

業種	業界天気	堅調なドリンク需要を背景に秋冬番茶は高値推移
製 茶	☁ → ☁	<p>(現況)・製茶問屋の売上高は、前年並みとなった模様。二番茶の県内生産高は前年をやや上回ったが、ドリンク用茶葉の不足から、価格は前年を2割程度上回って推移した。業界が力を入れる「水出し冷茶」は消費者に着実に浸透している模様。</p> <p>(見通し)・製茶問屋の売上は前年並みとなる見通し。ドリンク需要が底堅く、秋冬番茶は前年よりも1～2割高値を維持しそう。一方で、年末・年始の贈答需要は伸び悩むとみられることから、各地で開催されるイベントや「静岡茶屋」に認定された店舗等を通じて消費者にアピールし、需要拡大を図る方針。</p>

業種	業界天気	原材料価格や製造コストの上昇により、製品価格値上げへ
食 品 ・ 飲 料	● → ●	<p>(現況)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年並みで推移した模様。このうち、県内のツナ缶生産量は、国内工場の生産管理の厳正化などに伴い、前年を▲10%程度下回ったとみられる。飲料缶類の生産量は、前年をわずかに上回った模様。</p> <p>(見通し)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年並みで推移する見通し。カツオなどの魚価の高止まりに加え、資材価格や運賃の上昇に伴い、製品価格を改定する動きが増えると予想される。県内のツナ缶生産量は、製品価格の値上げなどの影響により前年を▲5%程度下回る見込み。</p>

業種	業界天気	「富士山紙フェア」などを通じて、消費者への浸透を図る
家 庭 紙	● → ●	<p>(現況)・家庭紙の生産量は、前年並みとなった模様。再生トイレ紙の生産量は前年並み。原料古紙をはじめ、エネルギー、薬品、輸送などコストの上昇を背景に、製品価格はやや引き上げられた。ティッシュの生産量も、ほぼ前年並みで推移した。</p> <p>(見通し)・家庭紙生産量は前年並みとなる見通し。再生トイレ紙は前年並み。コスト上昇に伴う値上げの定着を図る。ティッシュも前年並みとみられるが、輸入品の販促に対抗するため、価格戦略も含め今後の対応が課題。10月末に開催される「富士山紙フェア」などを通じて、消費者への浸透を図っていく。</p>

業種	業界天気	コスト上昇を背景に段ボール原紙は値上げが定着へ
産 業 用 紙	☁ → ☁	<p>(現況)・産業用紙の生産量は、前年をやや上回った模様。段ボール原紙は、天候不順から飲料向けは伸びを欠いたが、加工食品向けなどが堅調で、前年比微増。コスト上昇を背景に、価格引き上げが行われた。白板紙の生産は前年並みとみられる。</p> <p>(見通し)・産業用紙の生産量は、前年並みとなる見通し。段ボール原紙の生産は、冷凍食品などの加工食品向けが伸長し、前年をやや上回る見通し。価格面では、引き上げ後の価格が浸透していく見込み。白板紙は、前年並みとみられる。コストが上昇している中、製品価格は若干引き上げられる見通し。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	内外需とも伸長し、前年実績を大きく上回る見通し
工作機械	○ → ○	(現況)・全国および県内の受注額は、前年を+30%程度上回って推移した模様。外需は、メインである中国市場が回復し、前年を+40%程度上回ったとみられる。また、内需も自動車関連が好調で、前年を+15%程度上回った。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年実績を+20%以上上回って推移する見通し。内需は、自動車関連に加え半導体向けも好調で前年を+15%程度上回るとみられる。外需も、メインの中国需要に加え先進国での伸びが期待できることから、前年を+25%程度上回りそう。

業種	業界天気	エアコンは前年並みを確保するものの、例年を下回りそう
民生用電器部品	● → ●	(現況)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年実績並みとなった模様。8月以降は曇りの日が続いたことから、盛り上がりには欠けた。一方、業務用は堅調に推移したとみられる。冷蔵庫は大型タイプが伸び悩み、前年実績を若干下回った。 (見通し)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年実績を確保する見通し。ただし、前年実績が低水準であり、例年比較では下回る。一方、業務用は前年並みを維持しそう。冷蔵庫と洗濯機は、引き続き、省エネ・高機能製品が下支えして、前年並みは確保しそう。

業種	業界天気	国内販売が堅調に推移、県内生産量は前年並み
自動車部品	● → ●	(現況)・全国の自動車生産台数は、前年比5%程度増加し、5四半期連続で前年実績を上回った模様。国内販売が登録車・軽自動車ともに堅調に推移し、輸出も前年並みを確保した。県内部品メーカーの生産量は、前年並みだったとみられる。 (見通し)・全国の自動車生産台数は、前年並みで推移する見通し。国内販売は、登録車・軽自動車ともに、新型車を中心に堅調な動きが見込まれる。輸出も、欧米向けを中心に前年並みで推移するとみられる。県内部品メーカーの生産量は、前年並みを確保する見通し。

業種	業界天気	国内生産は前年並みを確保、県内生産量は微減
二輪車部品	☁ → ☁	(現況)・全国の完成車生産台数は、前年実績を大きく上回った模様。前期に引き続き前年の熊本地震による減産の反動増によるもので、減産の影響から脱したとみられる。県内部品メーカーの生産量は、ほぼ前年並みで推移した模様。 (見通し)・全国の完成車生産台数は、前年の熊本地震による減産の反動が収束し、ほぼ前年並みで推移する見通し。年末にかけて、メインである欧米向けの生産が徐々に増えていく。排ガス規制により8月で生産が終了したモデルがあり、県内部品メーカーの生産量は前年比微減で推移するとみられる。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	公共、民間ともに前年並み、物流関連施設の着工進む
建設		<p>(現況)・県内の公共工事契約額は、前年を大きく下回った模様。これは前年の8、9月に契約が集中したもので、例年水準は確保したとみられる。民間の工事費予定額も、大学キャンパスなどの大型着工が相次いだ前年の水準を下回った模様。</p> <p>(見通し)・県内の公共工事契約額は、前年並みで推移する見通し。東部地区の道路関連工事や西部地区の沿岸域関連工事などの契約が増加するとみられる。民間の工事費予定額も、前年並みとなる見通し。新東名など高規格道路のIC周辺地域を中心に、物流施設の着工が進むとみられる。</p>

業種	業界天気	持家は前年並み、貸家は飽和感が続き前年を下回る見通し
住宅		<p>(現況)・県内の持家新設着工戸数は、前年を下回った模様。固定金利型住宅ローン金利が前年に対し若干引き上げられたことから、消費者の動きは鈍かった。貸家も、中部地区を中心に着工数が伸び悩み、前年を下回った模様。</p> <p>(見通し)・県内の持家新設着工戸数は、前年並みで推移する見通し。県内景気は緩やかに改善しており、消費者の住宅取得意欲を後押しすると期待される。貸家は、市場の飽和感が引き続きマイナス要因となり、相続税対策で伸長した前年の着工水準には及ばない見通し。</p>

業種	業界天気	ネット通販との競合で、百貨店は衣料品が伸び悩み
大型小売店		<p>(現況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回った模様。百貨店は、化粧品や宝飾品が底堅く推移したが、夏物衣料品の落込みが響き、前年を下回った。GMSは主力の飲食料品が底堅く推移し、前年実績を確保したとみられる。</p> <p>(見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや割り込んで推移する見通し。百貨店は、インターネット通販などとの競合を背景に衣料品の伸び悩みが懸念され、前年をやや下回る見通し。GMSは、消費者の節約志向の強まりで価格競争の激化が見込まれ、前年実績には届かないとみられる。</p>

業種	業界天気	天候不順で農産品など品薄懸念、売上高は前年割れか
食品スーパー		<p>(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや下回った模様。農産品は、果物の相場が高めで推移し前年実績を確保したが、水産品は、イカやアジなどの不漁で振るわなかった。肉類は牛肉や豚肉の価格高騰で買い控えがみられた。</p> <p>(見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年を割り込んで推移する見通し。農産品は、夏場の日照不足や台風の影響により、キュウリやナスなどの品薄が懸念される。サンマやサケの不漁が続く水産物も、前年を下回る見込みなのに加え、肉類も相場高で、牛肉が伸び悩むとみられる。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ☁️低調 ☂️不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	イベント効果や人気モデルの改良で、登録車、軽ともに堅調
自動車販売	● → ●	(現況)・県内の乗用車販売台数は、前年を+5.5%上回った。登録車は、6月以降続いた主力コンパクトカーのモデルチェンジ効果もあり、前年比+5.2%となった。軽自動車は、前年の燃費不正問題の反動増で、前年を+5.8%上回った。 (見通し)・県内の登録車販売台数は、前年を上回る見通し。9月に発覚した無資格検査問題で一部の販売店では対応に追われる懸念があるも、モーターショーの開催が販売の後押し材料となるとみられ、市場全体では堅調な推移を見込む。軽自動車は、今夏改良の人気モデルの納車が進み、前年を上回る見通し。

業種	業界天気	4Kテレビがけん引し、前年をやや上回る見通し
家電量販店	● → ●	(現況)・県内の家電販売額全体は前年実績を確保した模様。8月の天候不順でエアコンの販売が落ち込んだものの、価格下落で需要が拡大した4Kテレビや、高機能製品の市場投入が相次いだ洗濯機などは、販売を伸ばした。 (見通し)・県内の家電販売額全体は前年をやや上回る見通し。テレビは、4Kテレビのさらなる価格下落が普及を後押しし、前年を+10%程度上回る見通し。また、スチーマーや美顔器といった美容家電や、一部商品で品薄が続いていたゲーム機なども、ニッチ市場ながら伸長が見込まれる。

業種	業界天気	トラック輸送量は年末にかけて荷動きに期待
運輸・倉庫	● → ●	(現況)・県内のトラック輸送量は、輸送用機器や飲料、エアコンなどの季節商品が堅調に推移したとみられ、前年水準をやや上回った模様。普通倉庫の入出庫高は、主力の電気機械、紙・パルプなどの荷動きが堅調で、前年を+10%程度上回った。 (見通し)・県内のトラック輸送量は、ウエートの高い輸送用機器などを中心に年末にかけて荷動きに期待がかかり、前年水準をやや上回る見込み。倉庫の入出庫高については、電気機械や食品関連の荷動きが堅調に推移するとみられ、前年を+5%程度上回る見通し。

業種	業界天気	売上高は前年水準をやや上回る見通し
情報サービス	○ → ○	(現況)・全国の売上高は、ソフト開発が順調だったほかシステム等管理運営受託も堅調に推移し、前年を+5%程度上回った模様。県内では、製造、金融、小売などのほか、行政関連に関わるシステム開発の案件が増加した。 (見通し)・全国の売上高は、ソフト開発が堅調に推移する見込みで、前年を+3%上回る見通し。県内の売上も、首都圏向けを中心に多くの案件を見込んでおり、前年水準をやや上回ると予想される。一方でSE不足が深刻化しており、案件があっても引き受けられないケースの増加が懸念される。

○好調 ○順調 ●普通 ●低調 ☂不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	外食意欲は後退せず微増推移
外食	<p>●</p> <p>→</p> <p>●</p>	<p>(現況)・県内主要外食店の売上高は、前年をやや上回った模様。消費者の需要が一定の水準をキープしており、リオ五輪のテレビ観戦で落ち込んだ前年を上回った。大手チェーン店による企画等も好評で客数増加に寄与した。</p> <p>(見通し)・県内主要外食店の売上高は、前年をやや上回る見通し。消費者に節約志向が垣間見られるものの、外食意欲は大きく後退しないとみられ、微増傾向が続く見込み。天候不順による食材の値上がりと、産直食材の調達に使われる宅配便の値上げがじわじわと収益を圧迫する模様。</p>

業種	業界天気	微増基調も総選挙実施の余波でマイナス
観光・レジャー	<p>●</p> <p>→</p> <p>●</p>	<p>(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年並みで推移した模様。国内の宿泊需要は底堅く、8月の天候不順も致命的なマイナスにはならなかった。ただし、台風の影響で海水浴など屋外型レジャーは苦戦を強いられた。</p> <p>(見通し)・県内主要旅館の売上高は、前年をやや下回る見通し。宿泊需要は微増基調にあるが、総選挙がマイナスに作用するとみられる。選挙期間中や投票日の旅行が減るだけでなく、後援会組織などの旅行も自粛されるとみられる。インバウンドは前年並みで推移する見通し。</p>

業種	業界天気	製造業を中心に設備投資は持ち直し、前年並みを確保
リース	<p>●</p> <p>→</p> <p>●</p>	<p>(現況)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや上回った模様。県内景気は緩やかに改善しており、大・中堅企業を中心に、受注増加に伴う新規設備の導入など、積極的な投資も見受けられた。機種別では、工作機械や輸送用機器が伸びた。</p> <p>(見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年並みとなる見通し。大・中堅企業では、製造業を中心に新規の設備投資が増加するとみられる。中小企業は、運輸・倉庫業などの非製造業で投資マインドが高く、製造業でも更新需要が底堅く推移しており、前年並みを確保する見通し。</p>

業種	業界天気	需要は旺盛も供給サイドの人材確保が困難
人材派遣	<p>○</p> <p>→</p> <p>○</p>	<p>(現況)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+5%上回った模様。製造、営業、販売、一般事務などの職種で旺盛な需要が続いた。一方、供給サイドでは、派遣先のニーズに合った人材を思うように確保できないなど苦慮するケースがみられた。</p> <p>(見通し)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+5%程度上回って推移する見通し。自動車関連、IT、介護などの分野で人手不足感が高まっており、引き続き高い需要が見込まれる。一方、供給サイドでは、派遣先企業の正社員採用強化などにより、派遣スタッフの人材確保は困難な状況が続くと予想される。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ●低調 ☂不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

ウォッチング

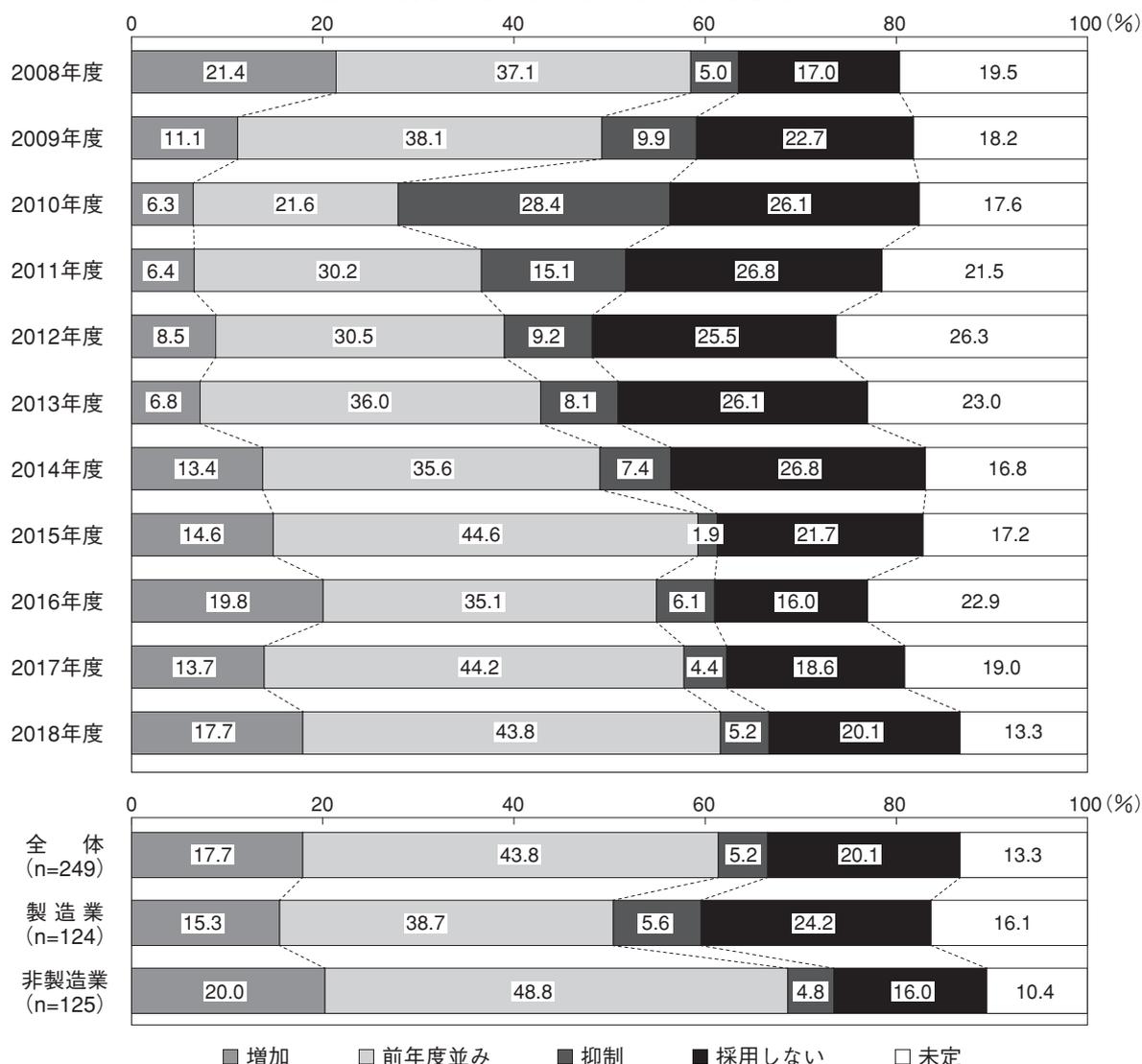
新卒者の採用「増加」方針は17.7%（前年度比+4.0ポイント）

2018年度の静岡県内企業の新卒者採用方針は、17年度より「増加」とする企業が17.7%と、前年度の13.7%を+4.0ポイント上回った。また、「採用しない」が20.1%と、前年度より+1.5ポイント増加したものの、「増加」と「前年度並み」で6割を超え、人材不足のもとで新卒採用に前向きとみられる。

業種別では、非製造業で「増加」方針が20.0%と製造業の15.3%を上回り、「前年度並み」（48.8%）と合計すると、約7割の企業が採用に意欲的とみられる。非製造業の中で、「増加」の多い業種は「運輸・通信業」（38.1%）および「建設業」（27.3%）。

しかし、新卒採用を増加させたい意向があっても、首都圏の大企業へ就職希望する学生が多く、「新卒者を採用したいが希望者が集まらない」（建設業）、「新卒採用の採用環境が極めて厳しく、中途採用に積極的に取り組みたい」（自動車部品）との意見も寄せられた。

図表 静岡県内企業の新卒者の採用方針



調査要領：調査時点 2017年9月、調査対象企業数630社、回答社数249社、有効回答率39.5%